

この提言は、日本学術会議／日本の展望委員会／知の創造分科会の審議結果を取りまとめ公表するものである。

日本学術会議／日本の展望委員会／知の創造分科会

委員長	藤田 英典 (第一部会員)	国際基督教大学教養学部教授
副委員長	小林 傳司 (連携会員)	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授
幹事	増淵 幸男 (連携会員)	上智大学総合人間科学部教授
	長谷川 壽一 (第一部会員)	東京大学大学院総合文化研究科教授
	三田 一郎 (第三部会員)	神奈川大学工学部教授
	苅部 直 (特認連携会員)	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	河合 幹雄 (特任連携会員)	桐蔭横浜大学法学部教授
	小林 信一 (特任連携会員)	筑波大学ビジネス科学研究科教授
	塩川 徹也 (連携会員)	東京大学大学院人文社会系研究科教授
	鈴木 謙介 (特任連携会員)	国際大学グローバルコミュニケーションセンター研究員
	松本 忠夫 (連携会員)	放送大学教養学部教授
	森田 康夫 (連携会員)	東北大学大学院理学研究科教授
	山田 礼子 (連携会員)	同志社大学社会学部教授
	吉見 俊哉 (連携会員)	東京大学大学院情報学環教授

本提言の作成にあたり、以下の方にご協力いただきました。

猪木 武徳 国際日本文化研究センター所長

川嶋多津夫 (「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会・委員、特認連携会員) 神戸大学・大学教育推進機構／大学院国際協力研究科教授

以下は、本日(6月29日)の「日本の展望委員会」会合用資料として、現時点までの「知の創造分科会」での審議内容の要点(今後の検討事項を含む)を同委員会・委員長の責任において暫定的に整理したものである。そのためもあって、最初に、最終報告書の最後に記載すべき<参考資料>の「審議経過」を記載する。

<参考資料>

審議経過と今後の予定一

1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会（質保証委員会）の審議経過

20年3月25日 文部科学省・中央審議会大学分科会制度・教育部会「学士課程教育の構築に向けて」（審議のまとめ）

5月22日 文部科学省からの審議依頼

6月26日 学術会議幹事会：設置提案の決定

8月14日 学術会議幹事会：委員委嘱の決定

9月12日 第1回会合 『学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）』について（高祖副委員長）

10月29日 第2回会合 「高等教育の動向と質的保証」（東京大学教授・教育学部長金子元久先生）

「イギリス高等教育の質・水準保証」（広島大学教授安原義仁先生）

11月6日 第3回会合 「理工系分野における大学教育の状況」（小林信一委員）

「大学教育と仕事との関係性について」（東京大学教授本田由紀先生）

12月19日 第4回会合 「大学における『教養』教育の可能性」（小林傳司委員）

「グローバル化時代の大学教育ーアメリカの大学及びICUの教養教育を中心に」（藤田英典幹事）

12月24日 文部科学省・中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」（答申）

21年1月22日 学術会議幹事会：3分科会の設置と委員委嘱の決定（職業との接続分科会は5月14日決定）

・質保証枠組み検討分科会

・教養教育・共通教育検討分科会

・大学教育と職業との接続検討分科会

2) 「質保証委員会／教養教育・共通教育検討分科会」・「日本の展望委員会／知の創造分科会」の審議経過

21年2月26日 第1回分科会 自由討議・今後の進め方

3月10日 第2回分科会 「これからの学士課程教育」（川嶋太津夫委員）

「最低限必要な知ー大衆を市民へ」（河合幹雄委員）

- 4月17日 第3回分科会／「知の創造分科会」第1回
「21世紀型」市民をどう考えるか（苅部直委員）
「理系大学教育 現状と課題」（三田一郎委員）
- 5月18日 第4回分科会／「知の創造分科会」第2回
「情報化時代の教養とスキル」（鈴木謙介委員）
「デジタル社会のエンサイクロペディストと教養教育」（吉見俊哉委員）
- 5月22日 第5回分科会／「知の創造分科会」第3回
「言語の教育と教養教育」（塩川徹也委員）
「教養・知的基盤教育の課題－放送大学を例にして」（松本忠夫委員）
- 6月12日 第6回分科会／「知の創造分科会」第4回
「大学教育の改善に向けて」（山田礼子委員）
「教養・共通教育：その多様性と支える仕組み」（小林信一委員）
- 6月25日 第7回分科会／「知の創造分科会」第5回
「大学と教養」（猪木武徳先生・国際日本文化研究センター所長）
「日本のリベラル・アーツの歩みとこれから」（長谷川壽一委員）

【今後の予定】

- 6月30日 分科会役員会（両分科会報告書の取り纏めの方針・枠組・素案の検討）
- 7月7日 第8回分科会／「知の創造分科会」第6回 報告書案の検討
「大学教育の質保証－教養教育・共通教育の理念と課題」（質保証委員会用報告書）
「現代市民社会における教養・教養教育－21世紀のリベラル・アーツの創造」（知の創造分科会用）
- 7月22日 第9回分科会／「知の創造分科会」第6回 両分科会報告書案の検討・承認
- 7月21日 第二部拡大役員会：分野別質保証委員会の概要報告）
- 7月26日 第一部夏季部会：分野別質保証委員会の概要及び同教養教育・共通教育分科会／知の創造分科会の報告書案の報告
- 7月31日 「日本の展望委員会・知の創造分科会」報告書（初稿）提出
- 8月下旬 第10回分科会／「知の創造分科会」第7回 領分開会報告書最終案の検討・承認
- 9月 「大学教育の分野別質保証委員会」公開シンポジウムの開催
- 10月～ 「大学教育の分野別質保証委員会」専門分野別の分科会の設置・審議開始

要 旨

1 作成の背景

「知の創造分科会」（以下、本分科会）は、日本の展望委員会の「テーマ別検討分科会」の一つとして設置され、「現代市民社会における教養・教養教育 — 21世紀のリベラル・アーツの創造」を検討すべきテーマとして与えられた。本分科会では、このテーマ・任務を、グローバル化する情報知識社会（「知識基盤社会」）等によって特徴づけられる21世紀社会の諸問題・諸課題を踏まえ、豊かな市民社会の展開と「知の創造」の基盤ともなる教養として何が重要か、その育成という点で、大学教育、とりわけ教養教育（リベラル・アーツ）に期待されるものは何かについて提言することにあると捉え、半年にわたり審議検討を重ねてきた。以下は、その成果を取り纏めたものである。

2. 現状及び問題点

(1) 時代状況

①グローバル化・国際化時代の諸課題

- ・経済・文化のグローバル化：人・モノ・カネ（資本）・文化のグローバルな移動・交流・相互依存
 - ・グローバルな課題（new threat）の増大（地球環境問題、紛争・テロ、新型感染症、金融危機など）
 - ・知識・技術・資格のグローバル・スタンダード化と高度化
 - ・多文化共生・グローカリゼーション（ローカルな文化・社会の尊重・平和的共存・持続的展開）
 - ・グローバル・ポリティクス的重要性の増大 等
- ➡国際的な資質・人材（視野・教養・連携・協力・協働）の育成

②知識社会（知識基盤社会）の諸要請

- ・経済のグローバル化と国際競争の新たな展開（ネットワーク化と競争の激化）
 - ・科学技術の高度化・細分化／融合化と国際競争の新たな展開（ネットワーク化と競争の激化）
 - ・ICT化・デジタル化の進展（メディアの地殻変動）と情報・知識の増大・多様化
 - ・産業・企業活動・雇用市場の流動化と職業・キャリアの多様化 等
- ➡高度化・複雑化する知識基盤社会に適応し、その諸課題・諸要請に対応しうる能力・知性・教養の形成

③大衆化する市民社会の諸課題

- ・グローバル／ナショナル／ローカルな社会の諸問題・諸課題への対応と平和的・持続的な展開
- ・各社会レベルにおける集合的意思決定（政治）への適切な市民参加（市民的公共性）
- ・グローバル／ナショナル／ローカルな社会の諸活動への参加と平和的な活力の維持向上（社会的公共性）
- ・豊かで文化的な市民生活・社会生活の享受とアイデンティティの確保 等
- ➡以上のような諸課題に適切に対応しうる能力・知性・教養の形成

④各種審議会の答申および各界の提言：「教養」の衰退に対する危機意識と再興・再構築への提言 について略述

(2)「教養」「教養教育」の変遷と課題

①「教養」の変化

- ・「教養」概念・理念の揺らぎ
- ・教養主義の衰退（古典教養・共通教養を核とした「教養」理念の衰退）
- ・「教養」の見直しと拡張

②大学における「教養教育（リベラル・アーツ教育）」の変遷

- ・欧米におけるリベラル・アーツ【中世の大学】自由七科・ラテン語（専門教育・職業教育の基礎）
 - 【近代大学】英米・アングロサクソン系：「幅広い教養人」の育成と専門教育・職業教育の基礎
 - 独・大陸系：中等教育での教養教育；大学は専門・職業教育
 - EU諸国＝ボローニャ・プロセスと学位制度再編・教養教育見直し気運
- ・日本における変遷：
 - （戦前）教養教育（旧制高校3年）＋専門教育（旧制大学3年）
 - （戦後改革）新制大学：前期2年の教養教育＋後期2年の専門教育
 - 「人文・社会・自然」3系列＋外国語・保健体育
 - （大学設置基準の大綱化）教養部の解体と教養教育の軽視・縮小傾向

③20世紀アメリカの大学におけるリベラル・アーツの変遷¹

- ・基本理念：「幅広い教養人」「良き市民 good/responsible citizen」の育

¹ 潮木守一「欧米におけるリベラル・アーツの起源と教訓」、『学術の動向』2008/5, 10-15 頁

成と「専門教育・職業教育」基礎的リテラシーの形成

- ・ 第一次世界大戦後：
 - 1919年～コロンビア大学「現代文明」、スタンフォード、ダートマス「市民社会の諸課題」
 - 1936年 シカゴ大学学長ハッチンズ「グレート・ブック」構想（古典教養）
- ・ 第二次世界大戦後：
 - 1945年ハーバード大学コナント・レポート「自由社会における一般教育」：人文・社会・自然の3系列、古典重視、自由な民主社会の多様性
 - 1960年代～文化相対主義の登場と「共通教養」への懐疑
 - ex. スタンフォード大学「諸文化・諸思想・諸価値 Cultures, Ideas, Values」
 - ◆ 高等教育・大学教育の大衆化・ユニバーサル化（学生・機能の多様化）
- ・ 冷静構造の崩壊・グローバル化時代・「福祉国家」社会の再編（「第三の道」への模索）：
 - 1990年代～：コア・カリキュラム改革（一般教育改革）と質保証
- ↳ **Swinging pendulum** のような変遷とその時々時代の状況・思想状況・諸課題・諸要請への対応を特徴としているように見受けられる

④アメリカにおける大学教育（学部段階の共通教育）の3つの概念

- ・ Liberal Education (LE)：「自由な精神を育む知的教養」を重視する傾向（←自由7科・古典教養）
- ・ General Education (GE)：非専門的学習～現代社会・世界・生活・環境に関わる学際的・総合的視座
 - ～自由社会における市民性・社会的責任・自己啓発のための総合的・統合的学習を重視する傾向
- ・ Core Curriculum (CC)：GE Core, LA Core, Common Core, Cultural Core, Basic Studies など呼称は多様
 - ～専門教育・継続教育のための基礎的知識・技能 (literacy) / 「良き市民・責任ある市民 (good/responsible citizen)」としての教養を重視する傾向

(3) 現代社会における「教養」「教養教育」の構造・構成要素

・・・「3 提言等の内容」の構成項目となる

① コンピテンス (教養知・実践知)

- ・自ら学び考え自省する知
- ・論理的・批判的思考力
- ・知識・情報・技術・メディアを活用するリテラシー／スキル
- ・生成・創造する知
- ・参加・関与・協働する知・構え
- ・多様な他者・異文化を理解し許容する知
- ・コミュニケーション能力
- ・状況に適応し問題・課題を解決する知
- ・リーダーシップ
- ・公智・世界観・倫理観
- ・人文学的リテラシー／社会科学リテラシー／科学的リテラシー
(理系にとっての科学的リテラシーを含む)
- ・越境・融合・統合する知

② 教養教育 (リベラル・アーツ)

ア 編成原理

- ・「広がり・多様性」重視 vs. 「深さ・コア」重視
- ・必修重視 vs. 選択重視 vs. 系列選択 (concentration) 重視
- ・古典重視 vs. ディシプリン重視 vs. 現代的レリバンス重視 等

イ 方法に関わる考え方の例 (融合・学際、総合・統合→教養知・実践知)

- ・「古典」を学ぶ／「古典」を通して学ぶ／「古典」に学ぶ
- ・外国語：コミュニケーション能力／外国語リテラシー (人文的／専門的レリバンス／現代的レリバンス) ／異文化理解
- ・少人数ゼミによる総合的学習
- ・プロジェクト型探究学習 (例：環境問題、都市問題、地域活性化、等)
- ・実践参加型学習 (体験学習)
- ・卒業論文・卒業研究の再評価と充実
- ・学生の主体的な学習用のセンター Learning Commons
- ・大学院修士課程も視野に入れた教養教育 (各大学の事情による) 等

(3) 生涯学習社会・高等教育ユニバーサル化時代の大学教育の役割

・・・「3 提言等の内容」の構成項目となる

3 提言等の内容

上記2の(2)(3)の要点を整理し提言とすることになる